中学生・高校生の社会的態度に関する研究（1）

久世敏雄・速水敏彦[1)]

I 問題

青年期の社会意識や社会的態度は，青年の知的・論理的思考の発達と密接な関連をもっており，青年の知的発達と相伴って，形成され変容されるものである。また，青年の社会意識や社会的態度の発達は，かれらの生活環境とかかわりがあり，地域文化的，家庭的諸要因とも関連することになる。

こうした青年期の社会意識や社会的態度が，どのような発達の実態を示し，様相を呈しているのか，さらに，児童期から青年期にかけてどのように変化するものであるか，また，青年期において，どのような変容を示すかを知ることは，青年を理解し，把握する上で興味深い問題である。

この青年の社会意識や社会的態度を扱かった研究は，津留らの努力によって集められた青年研究の文献目録（1973）によってみても，あまり多くない。これらの主題にかかわる研究は，藤原（1956，1968），西平（1964，1968）高橋（1971）等にみることができる。

藤原（1956）は，従来の社会的態度の研究を検討したところ，社会的態度を規定する基本的因子として，保守主義一過激主義因子のあることを指摘した。そして，中学生，高校生，大学生を対象に，社会生活，宗教，道徳，政治，経済の5領域から，それぞれ変革主義的命題を二つ，反変革主義的命題を二つ選び出し，それらについて検討を加えている。また，藤原（1968）は，大学生を対象にして前回と同じ質問項目で，しかし分析の視点をかえて，20個の項目相互間の相互相関を求め，その相関マトリックスを因子分析することにより，青年の社会的態度の検討をしたところ，変革主義的次元と支配体制に関連した次元を見い出している。しかし，若干の項目は，さらに修正し，検討することが必要であるとしている。

西平（1968）は，現代日本青年の社会意識を，そのおかれた歴史＝社会的状況の反映としてとらえ，家父長制的・封建的（F要因），大衆社会状況的（M要因），革新的・社会主義指向的（S要因）の3要因を仮定し，大学生の資料に基づいて，因子分析的検討を行なっている。

また，高橋（1971）は，学生の社会的態度を大学紛争との関連で明らかにすることを目的として，大学の現状をどう思うか，問題解決の方法として封鎖を肯定するかの傾向から，大学生を五つのタイプにわけ，これらの学生の好み，関心や天皇に対する態度などの異同を検討している。

このようにみてくると，従来の青年期を対象とした社会意識や社会的態度の研究は，そこで取り扱かっている内容は研究者により，さまざまの側面から検討されているが，保守的か革新的かといった次元に即した検討の多いことを指摘できる。さらに，被験者は，主として大学生であるといえよう。このような状況から判断して，中学生や高校生を対象に，保守的態度や革新的態度が，どのようになっているのか，その実態を把握し検討することは，意味あることということができる。

さらに，社会意識や社会的態度は，青年において，どのような経過をたどって，安定化・斉一化していくのであろうか。現代日本の青年が，革新的であるとか保守的であるというのは，中学ころに獲得した態度がそのまま高校ころまで持続し，あまり変化しないものなのか，あるいは，中学ころのさまざまの経験を経ながら，しだいに変容していくものなのであろうか。われわれは，青年の個々人に焦点をあて，個人ごとの社会的態度の変化の過程を追求することも必要である。

II 方法

1. 社会的態度測定の項目決定の手続き

中学生や高校生の社会意識を明らかにするため，どの観点から把握するのがよいかということが，まず問題となる。従来の社会意識や社会的態度の研究によれば，保守的，革新的態度を軸にすることは異論のないところであろうが，さらに，どの軸を附加したら，より現実の中学，高校生の生活態度をあらわしうるかについて，種々検討をした。このさい，教育価値論の専門家の意見を参考

1) 名古屋大学大学院教育学研究科教育心理学専攻博士課程学生

にしながら，中学生，高校生の社会的態度を保守的，革新的および大衆社会的態度について調査することにした。それらの態度に含まれる内容は，およそ，つぎのとおりである。

保守的態度：封建的・権威主義的で，伝統を尊び，義理人情を重んずる。消極的，保守的，国家主義的，家族制度肯定的であり，男尊女卑的である。

革新的態度：個人の自由尊重，人間の平等を主張し，合理的科学的精神をもつ。労働者階級の連帯観と団結を強調する。

大衆社会的態度：周囲への同調と他人指向性，疎外された結果としての政治的無関心，アノミーの亢進，小市民的態度を示す。

このような観点から質問項目を作成し，教育価値論の研究者とともに内容妥当性の検討を行ない，最終的に，各態度それぞれ15項目を決定した。保守的態度の項目は，質問の(1)から2項目とびごとに，革新的態度の2項目は，(2)から2項目とびごとに，大衆社会的態度の項目は，(3)から2項目とびごとに配列されており，それらは，附票に示すとおりである。

つぎに，われわれは，この態度測定インベントリーを，名大附属中学，高校生を対象として，昭和48年1月18日に実施した。有効調査人員は，表1のとおりである。得られた資料をもとに，質問項目の分析，検討を行

表1　有効調査人員

	中 1	中 2	中 3	高 1	高 2	高 3
男子	39	40	39	47	63	61
女子	33	37	38	62	49	47

なった。結果は，中学生男子，女子，高校生男子，女子の4群に分けた。そして，

1) 各項目の平均・分散
2) 項目間の内部一致性という意味での信頼性，すなわち，合成得点と個別得点の相関

の観点から検討を行なった。各項目の平均と分散については，極端に反応がかたよって，弁別力のないと思われる項目はない(結果の提示は省略する)。そこで，つぎに各態度測定のための15項目の合計点(合成得点)と各項目得点との相関係数を求めたところ，それ自身の合計得点との相関が負になっている項目は，どの態度群にもみられない。しかし，かなり低い正の相関が，いくつかみられ，この点から，項目の検討が必要となった。そこで，保守的態度項目では，中学男子で .114を示している(25)の項目と，中学女子で，.180を示している(43)の項目を除去することにした。革新的態度項目では，中学生男子で .170，中学女子で .153の相関が示された(29)の項目と，中学女子で，.077の値が示された(41)の項目を，また，大衆社会的態度項目では中学女子で，.128の相関が示された(24)の項目と，高校男子で，.091の値が示された(30)の項目を除去することにした。これらの項目は，それぞれの群で，仮定された態度を測定するには異質の項目と考えられるからである（結果の提示は省略する）。

2. 結果の整理

社会的態度測定のインベントリー作成のために用いたサンプルについて再整理した。すなわち，保守的態度については，問題項目，(1)，(4)，(7)，(10)，(13)，(16)，(19)，(22)，(28)，(31)，(34)，(37)，(40)，革新的態度については，問題項目，(2)，(5)，(8)，(11)，(14)，(17)，(20)，(23)，(26)，(32)，(35)，(38)，(44)，大衆社会的態度については，問題項目，(3)，(6)，(9)，(12)，(15)，(18)，(21)，(27)，(33)，(36)，(39)，(42)，(45)の，それぞれ13項目の合計点を，態度得点として個人別に算出したわけである。そのさい，それぞれの項目に非常に賛成の場合5点，賛成の場合4点，賛成とも反対ともいえない場合3点，反対の場合2点，非常に反対の場合1点を与えて得点化した。したがって，いずれの態度得点も，理論的には，13～65点に分布する筈であるが，実際には，保守的態度については，その得点が，13～60点に，革新的態度については，17～65点に，大衆社会的態度については，15～59点に分布した。

結果の整理は，つぎの観点から行なった。

1) 各社会的態度の中学生・高校生別，男女別得点ならびに各態度の相関
2) 各社会的態度の学年別・男女別得点
3) 各社会的態度の項目別，中学生・高校生別，男女別百分率

附　票

この調査は社会や学校や家庭などに対するみなさんの考え方や態度について調べるものです。現代の中学生や高校生が一般的にどのような考え方をしているのかみるのが目的ですから，思ったまま卒直に答えて下さい。

〔中学・高校〕　〔男・女〕　（あてはまる方を○で囲んで下さい）

年　　組　　番

原　　著

調　査　1

1　（やり方）

次の４５のそれぞれの考え方や態度について，あなたが実際にどう考えているかを　1.非常に賛成　2.賛成　3.賛成とも反対ともいえない　4.反対　5.非常に反対のうちから１つ選んで○印をつけて下さい。

	非常に賛成	賛成	賛成とも反対ともいえない	反対	非常に反対
(1) 国の政治は政治家にすっかりまかせた方がよい。	1	2	3	4	5
(2) 個人の自由は尊重すべきである。	1	2	3	4	5
(3) 流行語などはよく知っていないとはずかしい。	1	2	3	4	5
(4) 女が政治などに口だしすべきでない。	1	2	3	4	5
(5) 正しいことであれば世間体など気にすべきではない。	1	2	3	4	5
(6) 労働者や大学生のストライキやデモ活動などは関心がない。	1	2	3	4	5
(7) 結婚は家柄を重んじなければならない。	1	2	3	4	5
(8) いくら恩義のある人でも筋道のとおらない頼みごとは断った方がよい。	1	2	3	4	5
(9) みんなが見ているテレビ番組を見ていないととりのこされる気がする。	1	2	3	4	5
(10) 伝統や習慣は尊重すべきである。	1	2	3	4	5
(11) 社会のために正しいことであるなら親の反対をおしきっても行動すべきである。	1	2	3	4	5
(12) 国の法律が望ましいものかどうか考える必要はない。	1	2	3	4	5
(13) 世間をわたるには義理や人情が最も大切である	1	2	3	4	5
(14) いくら伝統だからといっても不合理なことはやめるべきである。	1	2	3	4	5
(15) 中・高校生の時代には政治の問題など考えるよりレジャーを楽しんだ方がよい。	1	2	3	4	5
(16) 長男が家をつぐのは当然だ。	1	2	3	4	5
(17) デモやストをするのは労働者の当然の権利である。	1	2	3	4	5
(18) 理論よりフィーリングやムードが大切である。	1	2	3	4	5
(19) 親孝行は子どもの義務である。	1	2	3	4	5
(20) 先輩の意見でも，まちがっていると思えば，納得できるまで議論する。	1	2	3	4	5
(21) 誰が衆議員の選挙で当選しようと日本の政治はかわらないと思う。	1	2	3	4	5
(22) 目上の人にはもっと敬語を使った方がよい。	1	2	3	4	5
(23) 男女の交際は全く自由であり，まわりの人がとやかく言うべきでない。	1	2	3	4	5

		非常に賛成	賛成	賛成とも反対ともいえない	反対	非常に反対
(24) 学級会や生徒会の時間はずいぶんむだなことをしているようでたいくつである。	(24)	1	2	3	4	5
(25) 世話をうけた人に恩返しするのは当然である。	(25)	1	2	3	4	5
(26) 政治をよくするためにはもっと進歩的な人から多くの代議士を選出すべきである。	(26)	1	2	3	4	5
(27) 今の世の中では平凡な家庭の中にささやかな幸福を求めた方がよい。	(27)	1	2	3	4	5
(28) 学校で定めている校則にはどんな場合にも従うべきである。	(28)	1	2	3	4	5
(29) 親子の結びつきの強い家庭より，夫婦の結びつきの強い家庭が望ましい。	(29)	1	2	3	4	5
(30) 自分の趣味にあったくらしをするのがよい。	(30)	1	2	3	4	5
(31) 世の中の秩序を守るために上下関係はなくてはならない。	(31)	1	2	3	4	5
(32) 家庭内の仕事は男女平等に分担すべきである。	(32)	1	2	3	4	5
(33) 共同募金や歳末助け合い運動があるとなるべくさけるようにする。	(33)	1	2	3	4	5
(34) 日本は天皇を中心にまとまるべきである。	(34)	1	2	3	4	5
(35) 「方角が悪い」などということはまったく信用しない。	(35)	1	2	3	4	5
(36) ベトナム戦争など日常生活とかけはなれた政治問題など考えるのはめんどうだ。	(36)	1	2	3	4	5
(37) デモやストでさわぐのは民主国家の恥である。	(37)	1	2	3	4	5
(38) 結婚式などの儀式はなるべく簡素化するのがよい。	(38)	1	2	3	4	5
(39) いつの世でもお金がなければ幸福にはなれない。	(39)	1	2	3	4	5
(40) 家庭では父親がすべての実権をにぎるのが望ましい。	(40)	1	2	3	4	5
(41) 生徒は先生の指導方針に対しても意見をのべることができる。	(41)	1	2	3	4	5
(42) 皆と同じような持物や服装をしていないとひけ目を感ずる。	(42)	1	2	3	4	5
(43) たとえまちがっていることだと思っても先生や先輩のいいつけには服従するのがよい。	(43)	1	2	3	4	5
(44) 家庭では子でもの意見も大人の意見と同等に尊重されるべきである。	(44)	1	2	3	4	5
(45) 公害問題は被害者と加害者だけの問題である。	(45)	1	2	3	4	5

Ⅲ 結　果

1. 各社会的態度の中学・高校別，男女別得点ならびに各態度の相関

表2は，保守的，革新的および大衆社会的態度の平均(M）ならびに標準偏差（SD）を，表3および表4は，各社会的態度の相関を，中学生，高校生の男女別に示したものである。

表2　社会的態度得点の平均ならびに標準偏差

社会的態度 ＼ 学校別		中学		高校	
	性別	男	女	男	女
保守的	M	33.98	34.05	33.53	31.76
	SD	5.51	5.82	7.11	4.97
革新的	M	48.20	47.44	48.84	48.71
	SD	4.59	4.54	6.52	4.97
大衆社会的	M	32.13	32.49	34.40	33.41
	SD	6.73	5.40	6.64	5.48

表2から，中学生および高校生は，全体的にみて，男子，女子ともに，革新的態度得点は高く，保守的・大衆社会的態度得点は，かなり低いことがわかる。

中学生と高校生を比較すると，男子は，保守的，革新的態度ともに，ほぼ等しく，大衆社会的態度で，高校生の方が高い傾向がある（$p<.005$）。女子は，中学生から高校生になるにしたがって，保守的でなくなり（$p<.001$），革新的になる傾向がある（$p<.05$）。大衆社会的態度は，ほぼ同様である。

男女別にみると，中学生では，各態度とも，ほぼ同様の傾向を示しているが，高校生では，女子は，男子よりも保守的でない（$p<.01$）傾向がある。

つぎに表3および表4から各社会的態度の相関をみると，保守的態度と革新的態度間に負の相関のあること（いずれも$p<.001$），保守的態度と大衆社会的態度間に正の相関のあること（中学生女子$p<.02$，他はいずれも$p<.001$）および革新的態度と大衆社会的態度に負の相関のあること（いずれも$p<.01$，ただし，中学生女子を除く）がわかる。

表3　社会的態度の相関（中学生）

	保守的	革新的	大衆社会的
保守的		−.385	.235
革新的	−.464		−.081
大衆社会的	.335	−.267	

斜線の上段は女子，下段は男子　表4も同様である。

表4　社会的態度の相関（高校生）

	保守的	革新的	大衆社会的
保守的		−.591*	.405
革新的	−.529		−.373**
大衆社会的	.546*	−.371	

表中 *印は中学生・高校生間の相関係数の差が$p<.05$であり，**印は$p<.01$であることを示す。

さらに，各態度間の相関は，中学生から高校生になるにしたがって，高くなる傾向がある。

2. 各社会的態度の学年別・男女別得点

表5および表6は，各社会的態度の平均ならびに標準偏差を学年別・男女別に示したものである。

表5　社会的態度の学年別得点の平均ならびに標準偏差（男子）

社会的態度 ＼ 学年別		中1	中2	中3	高1	高2	高3
保守的	M	36.97	33.17	31.85	32.81	34.25	33.34
	SD	4.08	5.88	5.72	7.34	6.95	7.03
革新的	M	47.41	47.35	49.85	49.96	48.00	48.85
	SD	3.79	4.67	4.90	6.72	6.59	6.11
大衆社会的	M	31.49	32.52	32.36	34.26	35.22	33.66
	SD	5.45	7.10	7.47	5.86	7.07	6.65

表6　社会的態度の学年別得点の平均ならびに標準偏差（女子）

社会的態度 ＼ 学年別 平均ならびに標準偏差		中 1	中 2	中 3	高 1	高 2	高 3
保守的	M	36.64	34.51	31.34	32.05	32.00	31.13
	SD	5.76	4.08	5.31	5.12	4.89	4.79
革新的	M	47.00	45.84	49.39	48.89	47.98	49.23
	SD	3.73	4.25	5.51	5.12	4.22	5.43
大衆社会的	M	33.45	33.11	31.05	33.06	34.02	33.23
	SD	5.78	4.39	5.67	5.26	6.08	4.94

表5および表6から，保守的態度については，中学生間では保守的態度を示さない方向で，得点の減少が若干みられるが，高校生間では顕著な変化はみられない。男子の場合，中学1年と2年の間に差がみられ（$p<.005$），女子の場合，中学2年と3年の間に差がみられている。（$p<.01$）

革新的態度については，各学年間の差は保守的態度ほどみられず，女子の場合，中学2年と3年の間に革新的になる方向で差のみられる程度である。（$p<.005$）

また大衆社会的態度については，男子の場合，中学生から高校生になるにしたがって，大衆社会的態度を示す傾向があるが，隣りあう各学年間の差はみられない。

男女差については，保守的態度において，高校2年で男子が女子より保守的である（$p<.05$）点を除いて，男女差はみられない。

3. 各社会的態度の項目別，中学・高校別，男女別百分率

表7は，保守的態度の項目別，中学・高校別，男女別の頻数を%に表わしたものであり，表8は中学と高校および男女に関して，χ^2 検定の結果を示している。

表7から，(7)結婚は家柄を重んじなければならない，(31)日本は天皇を中心にまとまるべきである，(1)国の政治は政治家にすっかりまかせた方がよいの項目などは，「反対」「非常に反対」の意見が多く，保守的でない傾向がみられている。一方，(19)親孝行は子どもの義務である，(10)伝統や習慣は尊重すべきであるの項目などでは，「賛成」する者がかなりみられている。

表7　保守的態度の項目別百分率

	項目別 ＼ 学校別 性別	中学 男 非常に賛成	賛成	賛成とも反対ともいえない	反対	非常に反対	中学 女 非常に賛成	賛成	賛成とも反対ともいえない	反対	非常に反対	高校 男 非常に賛成	賛成	賛成とも反対ともいえない	反対	非常に反対	高校 女 非常に賛成	賛成	賛成とも反対ともいえない	反対	非常に反対
7*	結婚は家柄を重んじなければならない	1.7	2.5	27.1	25.4	43.2	0.9	4.6	16.7	39.8	38.0	2.9	2.3	14.0	30.4	50.3	0.0	3.8	13.3	32.9	50.0
31	日本は天皇中心にまとまるべきである	4.2	5.1	25.4	19.5	45.8	0.9	9.3	30.6	25.9	33.3	3.5	2.3	14.6	22.2	57.3	0.6	1.3	19.6	38.0	40.5
1	国の政治は政治家にすっかりまかせた方がよい	0.0	2.5	9.3	46.6	41.5	0.0	1.9	23.2	43.5	31.5	5.3	5.3	15.8	27.5	46.2	0.0	2.5	20.9	46.8	29.8
34	デモやストで騒ぐのは民主国家の恥である	5.1	5.9	33.9	30.5	24.6	1.9	13.0	37.0	31.5	16.7	4.1	1.8	18.1	40.9	35.1	0.0	1.3	19.0	53.8	26.0
4	女が政治などに口だしすべきでない	8.5	8.5	21.2	41.5	20.3	0.9	0.9	7.4	28.7	62.0	9.9	9.9	19.3	41.5	19.3	0.0	1.3	8.2	31.0	59.5
25	学校で定めている校則にはどんな場合にも従うべきである	2.5	17.0	29.7	32.2	18.6	3.7	12.0	31.5	41.7	11.1	2.3	6.4	19.9	45.0	26.3	0.0	7.6	25.3	53.2	13.9
16	長男が家を継ぐのは当然だ	3.4	9.3	34.8	27.1	25.4	4.6	10.2	21.3	38.0	25.9	6.4	7.6	33.9	28.7	23.4	0.0	4.4	28.2	45.6	21.5
37	家庭では父親がすべての実権をにぎるのが望ましい	5.1	13.6	32.2	29.7	19.5	4.6	13.9	25.0	32.4	24.1	5.3	12.9	29.2	36.8	15.8	3.2	7.6	22.2	48.7	18.4
28	世の中の秩序を守るために上下関係はなくてはならない	4.2	22.9	44.1	10.2	18.6	3.7	25.0	47.2	18.5	5.6	9.9	26.3	31.6	22.2	9.9	1.9	26.0	48.7	17.1	6.3
13	世間をわたるには義理や人情が最も大切である	9.3	19.5	42.4	22.9	5.9	8.3	19.4	45.4	25.0	1.9	12.9	19.3	44.4	18.1	5.3	3.8	15.2	53.2	24.1	3.8
22	目上の人にはもっと敬語を使った方がよい	5.1	32.2	39.8	17.8	5.1	11.1	38.0	38.0	11.1	1.9	5.9	28.1	48.5	12.9	4.7	7.0	32.9	44.9	13.9	1.3
10	伝統や習慣は尊重すべきである	6.8	35.6	44.1	8.5	5.1	8.3	27.8	57.4	6.5	0.0	14.0	33.3	39.8	9.4	3.5	3.2	32.9	55.1	7.6	1.3
19	親孝行は子どもの義務である	17.8	48.3	26.3	3.4	4.2	18.5	50.0	22.2	8.3	0.9	17.0	40.9	29.2	8.8	4.1	11.4	43.0	35.4	8.2	1.9

* 以下表8から表12までの項目番号は，再整理後の番号を示している。

表8　保守的態度の項目別検定結果

		中学生と高校生との比較		男子と女子の比較	
		男	女	中学	高校
7	結婚は家柄を重んじなければならない				
31	日本は天皇を中心にまとまるべきである				**
1	国の政治は政治家にすっかりまかせた方がよい	**			***
34	デモやストで騒ぐのは民主国家の恥である	**			*
4	女が政治などに口だしすべきでない			***	***
25	学校で定めている校則にはどんな場合にも従うべきである	**	*		*
16	長男が家を継ぐのは当然だ		*		***
37	家庭では父親がすべての実権をにぎるのが望ましい				
28	世の中の秩序を守るために上下関係はなくてはならない	**		*	**
13	世間をわたるには義理や人情が最も大切である				*
22	目上の人にはもっと敬語を使った方がよい				
10	伝統や習慣は尊重すべきである				**
19	親孝行は子どもの義務である				

＊ p＜.05,　＊＊ p＜.01,　＊＊＊ p＜.001 以下表10,表12,表13および表14に関しても同じである。

表7・表8から,(4)女が政治などに口だしすべきでないの項目は,「非常に反対」の意見が女子では60%程度あり,顕著な男女差がある。また,高校生においては,男女差が多くみられている。さらに,(25)学校で定められている校則にはどんな場合にも従うべきであるの項目は,男女とも,中学生から高校生になるにしたがって,「反対」の意見が多くなっている。

表9は,革新的態度の項目別,中学・高校別,男女別の頻数を%に表わしたものであり,表10は,中学と高校および男女に関して,χ^2検定の結果を示している。

表9から,(2)個人の自由は尊重すべきである,(20)先輩の意見でも,まちがっていると思えば納得できるまで議論する。(8)いくら恩義のある人でも筋道のとおらない頼みごとは断った方がよいの項目などでは「賛成」「非常に賛成」の意見が多く,革新的な傾向の強いことがわかる。

表9,表10から,男女差のみられる項目として,(29)家庭内の仕事は男女平等に分担すべきであるは,女子の方が革新的な傾向を示し,(23)男女の交際は全く自由であり,まわりの人がとやかく言うべきでない,(17)デモやストをするのは労働者の当然の権利であるの項目は,男子の方が革新的な傾向を示している。また,(2)個人の自由は尊重すべきである。(17)デモやストをするのは労働者の当然の権利であるの項目は,男女ともに,中学生から高校生になるにしたがって賛成での方向の意見が多く,革新的になる傾向を示している。

表11は,大衆社会的態度の項目別,中学・高校別,男女別の頻数を%に表わしたものであり,表12は,中学と高校および男女に関してχ^2検定の結果を示している。

表9　革新的態度の項目別百分率

項目別 ＼ 学校別		中学										高校									
＼ 性別		男					女					男					女				
		非常に賛成	賛成	賛成とも反対いえない	反対	非常に反対	非常に賛成	賛成	賛成とも反対いえない	反対	非常に反対	非常に賛成	賛成	賛成とも反対いえない	反対	非常に反対	非常に賛成	賛成	賛成とも反対いえない	反対	非常に反対
29	家庭内の仕事は男女平等に分担すべきである	7.6	17.8	28.0	28.8	17.8	19.4	24.1	24.1	27.8	4.6	7.6	14.6	31.0	32.2	14.6	13.3	22.8	36.7	24.7	2.5
32	「方角が悪い」などということはまったく信用しない	19.5	19.5	42.4	12.7	5.9	13.9	20.4	37.0	21.3	7.4	33.9	17.5	34.5	9.9	4.1	16.5	18.4	42.4	20.3	2.5
26	政治をよくするためには,もっと進歩的な人から多くの代議士を選出すべきである	13.6	31.4	44.1	8.5	2.5	5.6	37.0	49.1	5.6	2.8	21.6	25.7	41.5	7.6	3.5	10.1	27.9	58.9	2.5	0.6
11	社会のために正しいことであるなら親の反対をおしきっても行動すべきである	17.0	34.8	41.5	5.9	0.9	12.0	33.3	48.2	5.6	0.9	13.5	37.4	39.8	4.7	4.7	12.0	38.6	40.5	8.2	0.6
35	結婚などの儀式はなるべく簡素化するのがよい	19.5	23.7	41.5	12.7	2.5	9.3	26.9	45.4	13.0	5.6	22.2	29.8	35.7	9.4	2.9	14.6	30.4	43.0	10.8	1.3
38	家庭では子どもの意見も大人の意見と同等に尊重されるべきである	27.1	34.8	29.7	6.8	1.7	24.1	45.4	23.2	7.4	0.0	20.5	43.9	24.6	7.0	4.1	23.4	50.0	23.4	2.5	0.6
17	デモやストをするのは労働者の当然の権利である	27.1	32.2	28.8	9.3	2.5	12.0	27.8	38.9	17.6	3.7	32.2	39.2	19.3	2.9	6.4	20.9	41.1	33.5	3.2	1.3
5	正しいことであれば世間体など気にすべきではない	30.5	38.1	22.9	6.8	1.7	25.9	48.2	22.2	2.8	0.9	26.3	40.9	24.6	5.9	2.3	20.3	54.4	24.1	0.0	1.3
14	いくら伝統的だといっても不合理なことはやめるべきである	27.1	38.1	19.5	11.0	4.2	20.4	50.0	24.1	4.6	0.9	35.1	35.7	21.6	5.9	1.8	20.9	52.5	19.0	5.7	1.9
23	男女の交際は全く自由でありまわりの人がとやかく言うべきでない	33.9	33.9	27.1	2.5	2.5	21.3	42.6	23.2	11.1	1.9	38.0	38.0	20.5	2.9	0.6	22.2	44.3	26.0	7.6	0.0
8	いくら恩義のある人でも筋道のとおらない頼みごとは断った方がよい	37.3	49.2	9.3	2.5	1.7	32.4	50.9	15.7	0.0	0.9	29.2	44.4	15.8	7.0	3.5	27.9	53.2	16.5	2.5	0.0
20	先輩の意見でもまちがっていると思えば納得するまで議論する	39.0	50.9	8.5	0.9	0.9	34.3	58.3	5.6	0.9	0.9	27.5	55.0	14.0	1.8	1.8	21.5	65.2	12.7	0.6	0.0
2	個人の自由は尊重すべきである	40.7	39.0	17.8	0.0	2.5	22.2	55.6	20.4	0.9	0.9	49.7	43.3	5.9	0.0	1.2	45.6	46.8	7.6	0.0	0.0

表10 革新的態度の項目別検定結果

		中学生と高校生の比較 男	中学生と高校生の比較 女	男子と女子の比較 中学	男子と女子の比較 高校
29	家庭内の仕事は男女平等に分担すべきである			**	***
32	「方角が悪い」などということはまったく信用しない				**
26	政治をよくするためには，もっと進歩的な人から多くの代議士を選出すべきである				***
11	社会のために正しいことであるなら親の反対をおしきっても行動すべきである				
35	結婚式などの儀式はなるべく簡素化するのがよい				
38	家庭では子どもの意見も大人の意見と同等に尊重さるべきである				
17	デモやストをするのは労働者の当然の権利である	*	***	*	**
5	正しいことであれば世間体など気にすべきではない				**
14	いくら伝統だからといっても不合理なことはやめるべきである				*
23	男女の交際は全く自由でありまわりの人がとやかく言うべきでない			*	*
8	いくら恩義のある人でも筋道のとおらない頼みごとは断った方がよい				*
20	先輩の意見でもまちがっていると思えば納得できるまで議論する				
2	個人の自由は尊重すべきである	*	***	*	

表11から，(39)公害問題は被害者と加害者だけの問題である。(12)国の法律が望ましいものかどうか考える必要はない。(30)ベトナム戦争など日常生活とかけはなれた政治問題など考えるのはめんどうだの項目などでは，「反対」「非常に反対」の意見が多く，大衆社会的態度を顕著に示さない。

表11，表12から，男女差のある項目として，(27)共同募金や歳末助け合い運動があるとなるべくさけるようにする。(15)中・高校生の時代には政治の問題など考えるよりレジャーを楽しんだ方がよいという項目は，女子の方が「反対」方向の意見が多くみられる。また，(27)共同募金や歳末助け合い運動があるとなるべくさけるようにする。(33)いつの世でもお金がなければ幸福になれないという項目では，男女ともに，中学生から高校生になるにしたがって賛成方向の意見が多く，大衆社会的傾向を示している。

Ⅳ 討 論

われわれの結果では，中学生，高校生ともに全体として，革新的態度得点が高く，保守的，大衆社会的態度得点は，低い傾向がある。さらに，保守的態度得点に関して，女子では，高校生になるにしたがって，保守的でなくなる傾向を指摘することができる。これらの結果のうち中・高校生において革新的傾向が示され，保守的でない傾向の示された事実は，藤原（1956）の結果と一致する。

表11 大衆社会的態度の項目別百分率

項目別	学校別	中学 男 非常に賛成	賛成	賛成とも反対ともいえない	反対	非常に反対	中学 女 非常に賛成	賛成	賛成とも反対ともいえない	反対	非常に反対	高校 男 非常に賛成	賛成	賛成とも反対ともいえない	反対	非常に反対	高校 女 非常に賛成	賛成	賛成とも反対ともいえない	反対	非常に反対
39	公害問題は被害者と加害者だけの問題である	2.5	1.7	5.9	28.8	61.0	0.9	0.9	0.9	36.1	61.1	2.9	4.1	15.2	22.2	55.6	0.0	1.3	8.2	43.0	47.5
12	国の法律が望ましいものかどうか考える必要はない	1.7	2.5	11.9	48.3	35.6	0.9	1.9	12.0	59.3	25.9	3.5	0.0	10.5	42.1	43.9	0.0	0.6	13.3	53.2	32.9
30	ベトナム戦争など日常生活とかけはなれた政治問題など考えるのはめんどうだ	2.5	3.4	17.8	45.8	30.5	0.0	7.4	22.2	49.1	21.3	5.3	10.5	19.9	40.9	23.4	0.6	5.7	25.3	47.5	20.9
9	みんなが見ているテレビ番組を見ていないととりのこされる気がする	2.5	8.5	22.0	40.7	26.3	0.9	15.7	26.9	41.7	14.8	3.5	11.1	29.2	30.4	25.7	0.0	12.0	35.4	39.9	12.7
36	皆と同じような持物や服装をしていないとひけめを感ずる	2.5	13.6	34.8	33.1	16.5	2.8	19.4	31.5	39.8	6.5	3.5	16.4	34.5	28.1	17.5	1.3	12.7	40.5	36.1	9.5
15	中・高校生の時代には政治の問題など考えるよりレジャーを楽しんだ方がよい	11.9	9.3	44.1	25.4	9.3	2.8	18.5	37.0	32.4	9.3	9.9	17.0	30.4	28.7	14.0	3.2	12.0	39.9	35.4	9.5
3	流行語などはよく知っていないとはずかしい	2.5	11.0	55.1	21.2	10.2	2.8	6.5	50.0	33.3	7.4	4.7	12.3	49.7	18.7	14.6	1.3	7.0	62.7	24.7	4.4
27	共同募金や歳末助け合い運動があるとなるべくさけるようにする	3.4	6.8	22.9	40.7	26.3	0.0	1.9	13.9	46.3	38.0	15.8	15.8	42.7	21.1	4.7	1.9	3.8	41.8	44.3	8.2
6	労働者は大学生のストライキやデモ活動などは関心がない	6.8	11.9	44.9	26.3	10.2	6.5	11.1	54.6	22.2	5.6	12.9	13.5	35.1	31.0	7.6	0.6	15.8	51.3	26.6	5.7
18	理論よりフィーリングやムードが大切である	4.2	20.3	51.7	18.6	5.1	4.6	21.3	52.8	16.7	4.6	5.3	17.0	43.3	25.7	8.8	3.2	15.2	57.0	22.2	2.5
21	誰が衆議院の選挙で当選しようと日本の政治はかわらないと思う	7.1	15.3	26.3	23.7	27.1	7.4	14.8	29.6	34.3	13.9	17.5	19.9	23.4	21.6	17.5	11.4	22.2	27.9	29.8	8.9
24	今の世の中では平凡な家庭の中にささやかな幸福を求めた方がよい	12.7	24.6	35.6	12.7	14.4	18.5	29.6	32.4	12.0	7.4	10.5	17.0	33.9	23.4	15.2	7.0	26.0	45.6	16.5	5.1
33	いつの世でもお金がなければ幸福にはなれない	8.5	16.1	30.5	25.4	19.5	4.6	12.0	37.0	27.8	18.5	15.8	27.5	29.8	15.2	11.7	4.4	27.9	36.7	19.6	11.4

表12　大衆社会的態度の項目別検定結果

		中学生と高校生の比較 男	中学生と高校生の比較 女	男子と女子の比較 中学	男子と女子の比較 高校
39	公害問題は被害者と加害者だけの問題である		*		***
12	国の法律が望ましいものかどうか考える必要はない				*
30	ベトナム戦争など日常生活とかけはなれた政治問題など考えるのはめんどうだ				*
9	みんなが見るテレビ番組を見ていないととりのこされる気がする				**
36	皆と同じような持物や服装をしてないとひけめを感ずる				
15	中・高校生の時代には政治の問題など考えるよりレジャーを楽しんだ方がよい			*	*
3	流行語などはよく知っていないとはずかしい				**
27	共同募金や歳末助け合い運動があるとなるべくさけるようにする	***	***	*	***
6	労働者や大学生のストライキやデモ活動などは関心がない				***
18	理論よりフィーリングやムードが大切である				*
21	誰が衆議院の選挙で当選しようと日本の政治はかわらないと思う				*
24	今の世の中では平凡な家庭の中にささやかな幸福を求めた方がよい		*		**
33	いつの世でもお金がなければ幸福にはなれない	**	*		*

われわれは，中学生および高校生の社会的態度として，保守的革新的および大衆社会的態度を仮定し，それらの態度を，もろもろの事象についての考え方や意見といった意識水準で把握しようと試みた。このような認知・意識水準での質問項目では，中学生から高校生まで，これらの各態度は，あまり変化がみられず，ほぼ同様の傾向が示されたものと考えられる。これらの社会認知は，もとより中学生，高校生の知的思考の発達と密接な関係があるものといわねばならない。

また，保守的態度得点に関して，女子では，高校生になるにしたがって保守的でなくなる傾向を指摘できるが，これらは，保守的態度項目のような肯定することが社会的に望ましくないと考えられる尺度上で差異が表われたものということもできる。革新的態度項目のように肯定することが社会的に望ましいと考えられる尺度上では差異が反映されないのである。このような傾向は，別の研究（依田・久世1959）でも示唆されている。

つぎに，各社会的態度得点では，平均値を問題とする限り，全体として中学生から高校生にかけて，あまり変化はみられないのであるが，中学生，高校生の個人内態度についてみよう。

まず，これを個人内各社会的態度の安定性といった観点から，α係数についてみると，全般的に中学生から高校生にかけて，α係数は，高くなる傾向があり（結果の提示は省略する），とくに，革新的態度については，中学男子は.456，中学女子は.597であるが，高校男子は，.735，高校女子は.697である。高校生は，中学生よりも，革新的態度の肯定，否定の安定性・斉一性のあることを指摘することができよう。また，表3および表4からみると，中学生から高校生になるにしたがって，各態度間の相関の高くなる傾向があるが，これらも，中学生から高校生にかけての社会的態度の斉一性を示したものと理解することもできる。

しかし，こうした中学生から高校生にかけての社会的態度の形成・変容の過程は，個人の縦断的研究を通して，十分検討さるべき課題であろう。

最後に，被調査者の問題に関連して，われわれのデーターは，名大附属中学・高校生を対象としている。そこで，比較検討の意味から一宮市内の公立中学および高校それぞれ一校の生徒を対象とした結果をみよう。表13および表14は，一宮市内中学生および高校生について，各社会的態度の平均ならびに標準偏差を学年別，男女別に示したものである。また，附属中学・高校生との検定結果は，表中に示したとおりである。

表13および表14から，中学生から高校生へと学年の進むにつれて保守的でなくなることおよび革新的になること――とくに女子――等を指摘することができる。これらの結果は，全般的にみて，各社会的態度とも，附属中

表13　社会的態度の学年別得点の平均および標準偏差（一宮市内男子）

社会的態度	学校学年別	中1	中2	中3	高1	高2	高3
	人数	113	120	120	85	133	69
保守的	M	38.02	38.10	35.02	32.93	34.23	33.44
	SD	5.57	6.29	5.51	6.21	6.15	5.37
革新的	M	46.42	46.71	48.88	48.83	48.21	48.09
	SD	5.09	5.22	4.80	4.05	5.32	4.44
大衆社会的	M	34.81	35.40	34.95	33.13	34.97	32.83
	SD	5.83	6.14	6.07	6.57	6.25	6.54

表14 社会的態度の学年別得点の平均ならびに標準偏差（一宮市内女子）

社会的態度 ＼ 学校学年別		中1	中2	中3	高1	高2	高3
	人数	104	103	85	86	77	97
保守的	M	38.43	36.73*	35.74***	32.94	33.45	31.92
	SD	5.82	5.54	5.69	6.09	4.44	5.41
革新的	M	44.92**	45.81	47.42*	47.96	46.44	48.06
	SD	3.65	4.53	4.57	4.29	4.61	4.77
大衆社会的	M	35.31	32.44	34.68***	33.37	34.78	32.99
	SD	4.57	5.42	5.34	4.72	5.02	4.68

学・高校生と同様の傾向を示しているということができ，とくに，高校生に関してあてはまる。中学生については，一宮市内中学生は，附属中学生にくらべ，より保守的であり，革新的でなく（女子），大衆社会的傾向を示している。それらの差異は，中学3年において顕著である。このような結果が示されたのは，多分に，一宮市内の被調査者が半農村地帯の田園的環境を反映したものといえるであろう。

V 結果の要約ならびに今後の展開

われわれは，中学および高校生の社会的態度を明らかにする目的で，保守的，革新的および大衆社会的態度を表わすと思われる項目を選定し，内容妥当性という見地から，教育学部田浦研究室の援助をうけ，各態度15項目の質問紙を構成した。この調査票を附属中学生および高校生に実施し，各項目の平均ならびに分散および合成得点と各項目得点の相関という観点から，各態度項目を最終的に決定した。これらの各態度それぞれ13項目をもとに，結果の分析を行なった。得られた結果は，次のとおりである。

1) 中学生および高校生は，革新的態度得点が高く，保守的，大衆社会的態度得点は，ともに低い傾向がある。（表2）

2) 革新的，大衆社会的態度に関しては，学年ごとの変化はあまりみられないが，保守的態度に関しては，中学生の場合，高学年になるにしたがって保守的でなくなる傾向がみられる。（表5，表6）

3) 各社会的態度間の関係は，保守的態度と革新的態度間に負の相関，大衆社会的態度と保守的態度間に正の相関，大衆社会的態度と革新的態度間には負の相関があり―ただし中学生女子を除く―中学生から高校生になるにしたがって，相関の高くなる傾向がある。（表3，表4）

得られた結果は，およそ以上のとおりであるが，われわれが問題意識でのべた中学生から高校生にかけての個人内社会的態度の変容については，ふれられていない。社会的態度得点について，中学生から高校生にかけて，あまり変化していない結果がえられているが，中学生で獲得された態度が，そのまま高校生になっても持続するものであるか，さまざまの体験を経ながらしだいに態度変容がなされ，全体としての結果に変容がないのか，明確に答えることができないでいる。われわれは，個人の社会的態度の変容に焦点をあて，問題を展開することが必要である。中学生から高校生にかけて，個人はしだいに態度が安定し，斉一化した特徴を示すと思われるが，これらの過程に注目する必要がある。これらの検討を行なうためには縦断的研究が要請されるのである。

あとがき

本調査と並行して，教育原論の田浦研究室による斉藤勉の調査「中学・高校生の価値意識の検討――名大附属中学校・高等学校の事例を中心にして――」もなされ，調査にあたっては両調査の関係者が協議し調査項目などを相互に調整した。その際，本調査全般にわたって，田浦教授らから有益な助言を戴いた。田浦教授らの調査は，本調査と密接に関連している。その内容については，名古屋大学教育学部紀要教育学科編に報告される予定である。

さいごに，調査にご協力くださった名大附属中学・高校の先生方に深く感謝の意を表します。

文　献

藤原喜悦　1956　青年期に関する心理学的研究　野間教育研究所　紀要第12輯　講談社

藤原喜悦　1968　青年の社会態度の因子分析的研究　東京学芸大学紀要（第1部門），**19**，72―78.

Nishihira, N. 1964 A study of the social attitudes in the present-day Japanese youth. *Psychologia*. **7**, 192―198.

西平直喜　1968　現代日本青年の社会意識―態度測定FMSの因子分析的研究―　山梨大学教育学部研究報告，**18**，119―128.

高橋丈司　1971　大学生の社会的態度の研究―大学紛争に関連して―　愛知教育大学研究報告，**20**，103―136

依田新・久世敏雄　1959　青年―両親関係　―社会的態度における親子の関係　教育心理学研究，6，229―237.

A STUDY OF SOCIAL ATTITUDES OF THE ADOLESCENTS

Toshio KUZE and Toshihiko HAYAMIZU

The present study investigates the social attitudes of the adolescents. Assuming three aspects of social attitudes, we prepared a questionnaire. The three aspects are : conservative, radical and mass-social. Each aspect of the questionnaire contains 13 items in its final form. The subjects are 289 boys and 266 girls in the faculty school of Nagoya University. The investigation was conducted in January of 1973.

The major results obtained are as follows:

(1) High school boys and girls tend to show high scores on the radical attitude and to show low scores on the conservative and mass-social attitudes (Table 2).

(2) The scores of pupils in the junior high school are nearly equal to those in the senior high school with regard to radical and mass-social attitudes. But the scores on conservative attitude of the junior high school boys and girls decrease with the children's age increased (Table 5, 6).

(3) The correlation coefficients between conservative and radical attitudes are negative, but they are positive between conservative and mass-social attitudes (Table 3,4).